

2016年4月から2018年3月までに

バンコマイシン塩酸塩点滴静注用による治療を受けられた方へ

当センターでは下記の臨床研究を実施しています。この研究の詳細についてお知りになりたい方は、問い合わせ担当者まで直接お問い合わせください。

なお、この研究の研究対象者に該当すると思われる方の中で、ご自身の情報等をこの研究に使ってほしくないと思われた場合にも、問い合わせ担当者までその旨をご連絡下さい。

●研究の名称

高齢者のバンコマイシン血中濃度予測に関わる腎機能評価方法の再評価と検討

●研究の対象

2016年4月～2018年3月に当センターに入院し、バンコマイシン塩酸塩点滴静注用による治療を受けられた方

●研究の期間

研究許可日から 2022年3月まで

●研究の目的

バンコマイシン塩酸塩点滴静注用（VCM）は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（methicillin - resistant *Staphylococcus aureus* : MRSA）感染症の治療に最も広く使用されている抗菌薬です。VCMは有効性と安全性の観点から、投与期間中は血中のVCM濃度を測定し、適切に投与量調整を行う必要があります。そのため、VCMの投与を開始する際、患者様の体格や腎機能から投与量を設定し、どの程度の血中濃度になる予測をしますが、高齢者では若年者と比較して予測精度が低下する事が知られております。その原因の一つとして、VCMの投与量を決定する際の正確な腎機能評価が困難であることが挙げられており、これまでに様々な腎機能評価方法によってVCM血中濃度の予測精度を向上するための研究が行われています。本研究では、これまでに使用されてきた腎機能評価方法に加え、近年報告された高齢者に特化した腎機能評価方法を使用することで、VCM血中濃度の予測精度を向上出来るか検討することを目的としています。

●研究の方法

上記の期間に当センターに入院し、VCMの点滴治療を受けられた方の背景（年

研究－参考書式 1

年齢、性別、身長、体重など)、VCMの投与状況(投与量、投与期間など)、検査結果(VCM血中濃度、腎機能検査、栄養状態など)のデータを電子カルテより収集します。得られたデータを使用して、これまで用いられてきた方法、また近年報告された高齢者に特化した方法を用いてクレアチニンクリアランスや糸球体濾過量と呼ばれる腎機能指標を算出します。これらの腎機能指標を用いて予測したVCM血中濃度と実際のVCM血中濃度を比較し、より予測精度の高い腎機能評価方法を検討します。

●研究に使用する試料・情報

年齢、性別、身長、体重、血清クレアチニン、血中尿素窒素、総蛋白、アルブミン、VCM投与量、VCM血中濃度、VCM投与期間

●研究組織

研究責任者：東京都健康長寿医療センター薬剤科 瀧川正紀
共同研究者：東邦大学薬学部 実践医療薬学研究室 石井敏弘
東邦大学薬学部 実践医療薬学研究室 田中博之

●資料の入手または閲覧、開示

この臨床研究の計画や方法については、あなたのご希望に応じてあなた自身の資料の要求または閲覧ができます。あなたがご自分の研究結果を知りたいと希望される場合は、研究担当者にその旨をお伝えいただければ、他の研究対象者に不利益が及ばない範囲内で、あなた自身にあなたの結果をお伝えします。希望された資料が他の研究対象者の個人情報を含む場合には、資料の提供または閲覧はできません。

●お問い合わせ先

〒173-0015 東京都板橋区栄町 35 番 2 号
東京都健康長寿医療センター

連絡先：東京都健康長寿医療センター薬剤科 瀧川正紀(平日 9:00~17:00)
03-3964-1141 (内線：2018)